

佐賀県交運労協「九州新幹線西九州ルートに関する学習会」**西九州新幹線の現状と課題について理解を深める**

佐賀県交運労協は7月30日、佐賀市内で「九州新幹線西九州ルートに関する学習会」を開催した。当日は、幹事会の他、九州交運労協から権藤英樹事務局長、連合佐賀から各政策委員が出席し、西九州新幹線の現状と課題について理解を深めた。



冒頭、佐賀県交運労協を代表して森田末喜議長（交通労連）が挨拶に立ち、「西九州新幹線の整備方式については、県と国との間で『幅広い協議』が行われているが進展していない現状である」と指摘したうえで、学習会の目的について、「西九州新幹線に対する様々な立場を越えて、まずは、県民の一人として西九州新幹線について関心を持つことが重要」と述べ、出席者に対して理解を求めた。

学習会では、第一部としてJR九州から、西九州新幹線の概要や停車駅・車両基地の建設状況について報告があった他、鹿児島ルート的事例を紹介しつつ、西九州ルートにおける新幹線を契機とした街づくりの現状や整備効果、さらには、現在検討されている5つの整備方式のメリット・デメリットや、財源負担・並行在来線の取扱い・ルート等の課題について説明があった。

第二部では、徳光清孝・藤崎輝樹両佐賀県議会議員から県政報告があり、徳光県議からはこれまでの経緯について説明があった他、「九州新幹線西九州ルートフル規格整備の課題」として、財源負担の嵩上げ、並行在来線の利便性低下、新大阪までの直通運転の現実性、整備効果等が指摘された。また、藤崎県議からは、県議会での議論経過について報告があった。

最後に、花田祐希副議長（JR連合）が、「今回、西九州新幹線について理解を深めることができました。本日の学習会で得た知見を基礎に、今後の政策活動を推進していくとともに、地域と交通事業者間のパートナーシップを大事にしながら政策実現に取り組んでいきたい」と述べ、佐賀県交運労協の政策実現に向けた決意を示すとともに、出席者に対して今後の各種取り組みへの理解と協力を求めた。